

平成25年度  
千葉市教育研究会音楽部会  
中学校 表現ブロック

# 音楽科学習指導案

市教研音楽部会研究・研修主題

「伝えよう 私の音楽 私の心」

本授業における研究視点

視点1 思いや意図を伝え合う活動の充実を図るために

「指導・助言」

千葉市立都賀小学校 澁谷 亨先生

千葉市立小倉小学校 宮下 彬先生

日時：11月19日（火）

日程：（授業展開）14：00～14：50 【音楽室】

（協議会）15：00～ 【視聴覚室】

題材名 曲想を生かした表現を工夫しよう

教材名 日本の歌 作曲：長井 桃子

展開クラス 2年H組

授業者 窪田 悟羽

千葉市立打瀬中学校

# 音楽科学習指導案

平成25年11月19日(火)

展開学級 2年 H組

展開場所 音楽室

授業者 窪田 悟羽

## 1 題材名 曲想を生かした表現を工夫しよう

教材名 「日本の歌」(ヴォイスリズム)

学習指導要領との関わり

A表現 (1) 歌唱 イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。

[共通事項] (1) ア リズム、速度、強弱

## 2 題材について

### (1) 題材の目標

言葉やリズムの特徴を感じ取り、曲想を生かした表現を工夫する

### (2) 題材観

本校の研究主題である「表現する力を向上させるための指導と評価のあり方～思考・判断の深化を通して～」を受け、音楽科では「主体的に表現活動に取り組む生徒の育成と評価の工夫」を研究主題として取り組んでいる。表現力を伸ばしていくためには「音楽表現の創意工夫」の力をつけていくことが大切であると考え、そのためには表現したい思いを自分なりに持つことが大切になり、表現を工夫するためには音楽の基本である読譜力や表現の技能を高めることが必要となってくる。

本題材は、学習指導要領の第2学年及び第3学年の内容A表現(1)イ「曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。」を受け、言葉とリズムの関係を生かした表現を考えながら、声部の重なりやかかわりを生かした表現を工夫することに主眼を置き設定した。

これまで合唱やリコーダーアンサンブルを作り上げていく過程の中で、曲にふさわしい表現を追求する活動を行ってきた。ただ、フレーズやモチーフの細かな演奏表現の工夫やパート同士のかかわりを生かした表現を十分習得しきれないまま現状に至っている。

今回は、ヴォイスリズムの教材を使い、言葉やリズムの特徴を生かしたより細かな表現方法を考える中で、1つ1つのモチーフのもつよさやおもしろさを感じ取り、具体的に音楽的表現へと結び付ける経験を積ませていきたいと考える。

### (3) 生徒の実態 (男子 17名 女子 18名 計 35名)

明るく活発な雰囲気を持った集団である。音楽への関心が高い生徒が多く、よりよい音楽を求めようとする意欲を感じることができる。ただ、自分の意見を発表することに抵抗があるためか、互いにいろいろな意見を共有することが難しい傾向にある。1人1人はすばらしい意見や思いを持ってはいるものの、間違えることへの不安や仲間と違った意見であった場合の羞恥心などが弊害となり、感覚的な発言はなかなか出づらい。しかし、教科書通りの答えは自信を持って発表できるので、個々が感受している自由な意見を求める場面では、発問に工夫が必要である。今後の課題としては、音楽を聴いて思ったことや感じたことを自由に仲間と共有し、その思いを音楽表現へと生かしていく活動を生徒同士で行っていくことが挙げられる。

#### (4) 指導観

本題材は、市教研音楽部会研究主題「伝えよう 私の音楽 私の心」を受けて設定された3つの研究の視点のうち、以下の視点に着目して授業を行う。

##### 《視点1》思いや意図を伝え合う活動の充実を図るために

本授業では、「言語活動の充実」と「生徒の主体的な活動」の2つを柱として、互いに音楽の表現意図や感受した雰囲気や特徴を共有し、自分たちで音楽を作りあげていく過程を大切にしたいと考える。

音楽を体全体で受け止めた時に、その音楽のもつ雰囲気や特徴、イメージなどは頭の中で言語として処理される。それを文字や言葉で表現することで自分の持っている思いや意図が初めて自分以外の人間に伝えることができる。音楽から得られる様々な感覚的思考を表現する簡単な手段として、文字によって書き記すことあるいは言葉で伝えることが挙げられる。本校生徒の実態を踏まえると、まず文章によって自分の考えをまとめさせ、自分の意見に自信を持たせることが必要である。その音楽にふさわしい表現方法や音楽の醸し出す雰囲気をありのまま自由に記述させ、そこから発表や話し合いを通して言語活動の充実につなげたい。

今回扱う教材は、ヴォイスリズムによる「日本の歌」である。リズムに付けられている言葉は日本の47都道府県名であり、文字数にあわせた音符があてられている。楽曲は5つのパートが設定されており、各パート同士が密接に関わりあって全体を構成している。今回は全体を曲想の変化に合わせて、A～Dの4つの部分に振り分けた。D以外の部分はリピート記号があり、AとDは提示部と再現部の関係となっている。また、Cの部分はガムランに見られるコテカンやアフリカ音楽のポリリズムが複合的に融合しており、終わり4小節は全てのパートのリズムが揃う。楽譜については五線上に「ラ」「ド」の2音によって言葉に音符が記されてはいるものの、あくまで言葉のイントネーションを表現しているにすぎない。無機質なリズムの中には無限に表現の可能性が含まれているのが大きな特色である。

本題材第1次では、楽曲の雰囲気や特徴を感じ取り、曲の構成とパート同士のかかわりを理解させていく。合唱とは違った表現であるヴォイスリズムの特徴をつかみ、練習段階から声質の変化による表現の多様性や言葉のイントネーションに合わせたリズムのおもしろさを感じ取らせていきたい。また、休符が音楽に「間」を与えているフレーズが多いため、今まであまり意識していなかった休符への関心も高めさせていく。

本題材第2次では、強弱や速度などの全パートが影響される音楽表現の均一化を図り、統一したテンポ感やダイナミックスの中でアンサンブルを仕上げることを目的としている。楽譜には最小限の強弱記号しか書かれていないため、多くの部分は演奏者側の裁量に任されていると言える。また、テンポの設定も指示されていないことから、自分たちで適切なテンポを見つけることが必要である。そこで、実際にテンポや強弱を変化させて演奏し、曲にふさわしい表現を見出していく活動を行っていきたい。

本題材第3次では、自由な発想を生かして1つ1つのモチーフの表現を工夫し、より立体的なアンサンブルを作りあげていく。言葉の語感やイントネーションを把握し、声の質や高低を上手く工夫して多様な表現を考えさせていきたい。また、自分たちの演奏を録音し、客観的に演奏を聴く耳を育て、今後の表現活動につなげていく契機としたいと考える。

各段階において何よりも重視したいのが、「生徒の主体的な活動」である。教師側が全てを教え込むのではなく生徒が考え、よりよい音楽を求めていく意欲を喚起していくことを前提として活動を展開していく。これまで学習してきた音楽の知識や技能を用い、個々の感性を発揮しながら自分たちで音楽を作り上げていくことのおもしろさや楽しさを味わわせていきたい。

### 3 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の工夫	音楽表現の技能
曲種に応じた発声、言葉の特性に関心を持ち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。

### 4 題材の指導計画及び評価計画

時配	ねらい ○学習内容 ・学習活動	教師の働きかけ	評価規準・評価方法
第1時	ねらい：曲の雰囲気を感じ取り、自分のパートを練習する。		
	<p>○範唱を聴き、曲の雰囲気を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜を見ながら曲のもつよさや特徴を考える。</li> </ul> <p>○グループを決め、リズムに気をつけて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ1つの言葉に気を配り、パートでリズムを合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が担当したいパートを考えさせながら聴かせる。</li> <li>・曲の雰囲気や特徴について何でも発表させる。</li> <li>・リーダーを中心にパート練習をさせる。</li> </ul>	<p>楽曲に関心を持ち、積極的に練習に取り組んでいる（関心－①活動の観察）</p> <p>正確なリズムで演奏する技能を身に付けている（技能－①活動の観察）</p>
第2時	ねらい：グループごとに表現を工夫して練習をする。		
	<p>○グループごとに曲想を生かした強弱や速度を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・速度と強弱の変化を工夫するように練習を進めさせる。</li> <li>・工夫したところをワークシートにまとめる。</li> </ul> <p>○言葉の特性を生かした表現を考えて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉のイントネーションや声質を変化させ、多様な表現を工夫する。</li> <li>・グループで工夫した点を模造紙にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに強弱の幅や速度の変化の度合いを試行させ、曲にふさわしい表現を考えさせる。</li> <li>・巡回指導し、パートごとの進度をそろえる。</li> <li>・模造紙へのまとめ方を巡回指導する、</li> </ul>	<p>曲にふさわしい強弱や速度を生かして表現を工夫している。（工夫－①活動の観察・ワークシート）</p> <p>言葉の特性を生かした表現を工夫している。（工夫－②活動の観察ワークシート）</p>

第3時 本時	ねらい：曲想を生かした表現を工夫して演奏する。		
	<p>○グループごとに表現を工夫して練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫した部分を明確にし、しっかりと演奏に反映されるよう練習する。</li> </ul> <p>○グループによる多様な表現を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに発表し、聴くグループは工夫していた部分をワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習内容をふまえて練習させる。</li> <li>・速度や強弱、言葉のニュアンスや声質等に注目させ、工夫した部分を聴き取らせる。</li> </ul>	<p>曲想にふさわしい表現をすることに意欲的である。(関心②活動の観察)</p> <p>曲想を生かした表現をする技能を身に付けている。(技能②活動の観察)</p>

### 5、本時の学習（3／3）

#### (1) 本時の目標

グループごとに表現を工夫して演奏しよう。

#### (2) 視点との関わり

本時では、どのように表現したいのか思いや意図を考えさせ、それをパートでまとめることを通して、伝え合う活動を広げていく。また、共有した思いや意図を音楽で表現できるよう練習に取り組み、音楽の表現を追求させていきたいと考える。

#### (3) 本時の展開

時配	○学習内容 ・ 学習活動 [共通事項]	○教師の働きかけ ◆評価規準
5分	<p>○本時の目標を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標について理解し、本時の進め方を知る。</li> </ul>	<p>○目標のねらいと本時の活動のつながりを説明する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>グループごとに表現を工夫して演奏しよう</p> </div>		
5分	<p>○グループごとに工夫した部分を表にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大表に表現する部分や具体的な表現内容を書き入れ、まとめる。</li> <li>・工夫する事項を色別に分け、見やすく記入する。 [強弱 速度]</li> </ul>	<p>○前時までの学習内容を振り返らせ、目標を確認させる。</p> <p>○グループで考えた表現を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを使って考えさせる。</li> </ul>
20分	<p>○グループで考えたことが表現できるように練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大表にまとめた内容を踏まえて練習する。</li> <li>・どの部分をどのように表現したのか練習の中で試行錯誤し、表現を深める。</li> </ul>	<p>◆関心②【活動の観察】</p> <p>○巡回指導し、円滑に練習が進むようにする。</p> <p>練習場所：音楽室 2グループ オープンワークスペース 1グループ</p>

15分	<p>○グループごとに発表し、互いに表現のよさを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順番に3つのグループが発表し、聞き手はどこをどのように表現していたのかを考える。</li> <li>・演奏の後、そのグループの拡大表を見て表現を工夫した部分について確認し合う。</li> </ul>	<p>◆技能-②【活動の観察】 (取り組み・態度)</p> <p>○他のパートがどのように工夫していたのかを、自分なりにワークシートにまとめさせる。</p>
5分	<p>○本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの自己評価をし、学習のまとめをする。</li> </ul>	<p>○学んだことを今後の活動につなげていく指導をする。</p>

# 曲のよさを生かして表現しよう！！

ヴォイスリズム 「日本の歌」

組 番

☆グループで表現を工夫しよう

パート グループ名

工夫する事項		どこを どんなふうに？
例)		
全	速度	〇〇の部分をだんだん遅く 〇〇→2回目 すこし速く
全	強弱	A→f f 〇〇だけ「大きく」 〇〇は「ささやく」
1	声質	〇〇〇→鼻声っぽく 〇〇→太い声 〇〇→そこぬけに明るく 〇〇→一本調子で

<工夫する事項>

速度 強弱 声質 (歌い方や声の出し方、ニュアンス等)

☆他のグループ演奏を聴いて表現を工夫している部分を見つけよう♪

グループ名	工夫していたところ

☆自己評価 ～ヴォイスリズムの授業を通して～

意欲的に活動できた	A	B	C
グループで協力して表現を工夫することができた	A	B	C
仲間の演奏のよさを見つけることができた	A	B	C
<p>&lt;一言感想&gt;</p>			